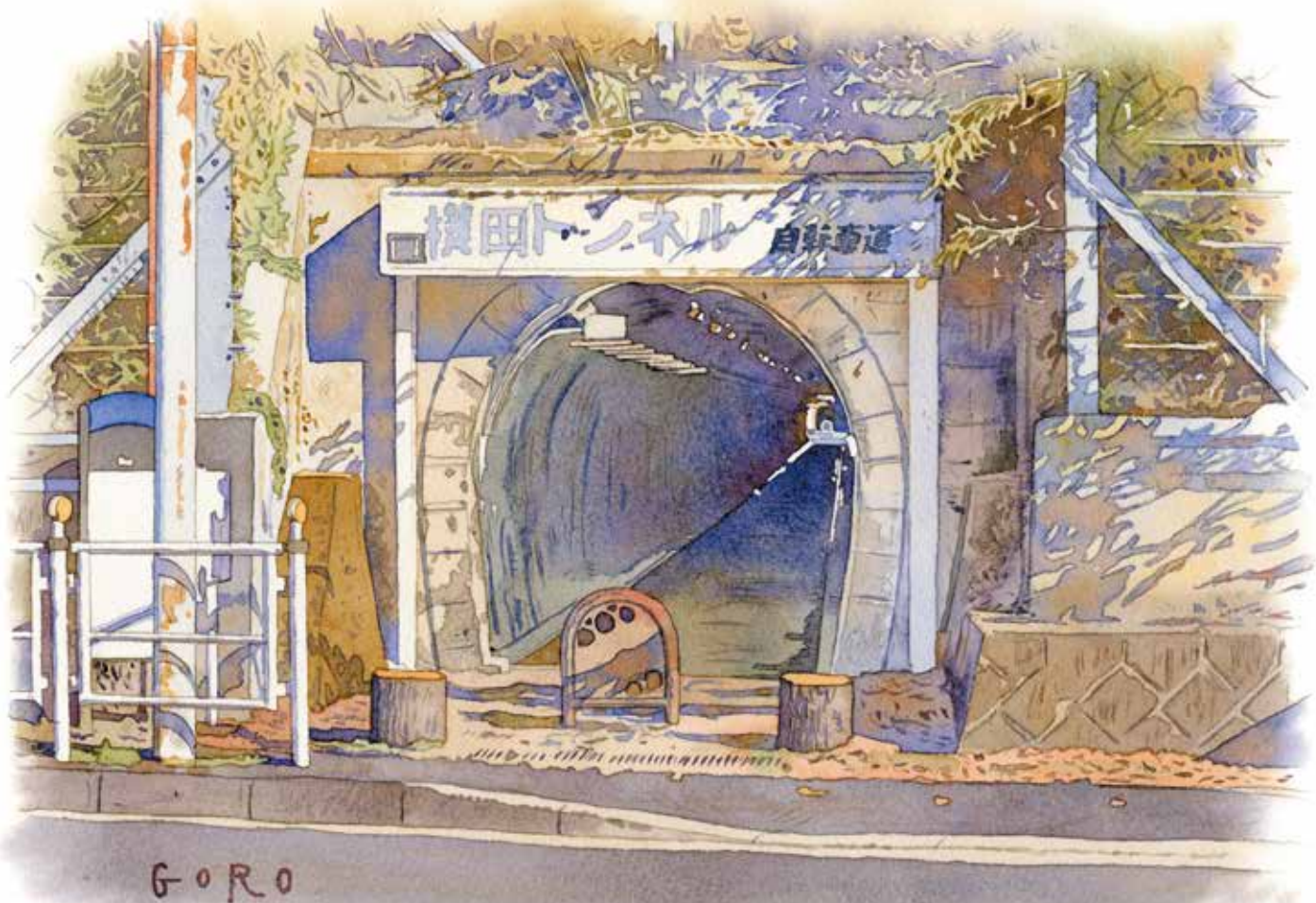


ちいさな 建設

横田トンネル自転車道



狭山丘陵を貫く トンネル群

大正から昭和初期にかけ、東京都西部の狭山丘陵の谷合に村山貯水池（多摩湖）、更に山口貯水池（狭山湖）が建設され、その工事に軽便鉄道が活躍した。多摩川の羽村取水堰から東へ現・羽村市、武蔵村山市を通り、貯水池まで資材を運搬しつつ、導水管を埋設。一九一八（大正七）年開始の村山貯水池建設では、鉄道路線と導水管は丘陵の起伏を迂回して敷設されたが、追って一九二八（昭和三）年、山口貯水池建設では、この起伏を貫通するルートを新設し、六つの隧道が掘られた。西端の一号隧道が現在の「横田トンネル」だ。内部の高さ・幅二・七メートル、延長一六四メートル。一口ほど先まで赤堀、御岳、赤坂の各トンネルが連続する。

鉄道跡地は野山北公園自転車道として整備され、トンネルもサイクリングやハイカーのグループが行き交う。トンネル間の道は住宅地に通じ、生活道路として通勤や買物などに利用されていて、小学生たちが「わーっ」と元気の歓声を上げながら、トンネルの出口の光に向かって駆ける姿にも出会う。

アクセス バス停「横田」から歩いて5分ほど